

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

新入職医師・帰任医師のご紹介



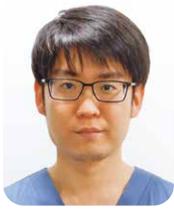
形成外科 多田 惇 (ただ じゅん)

皆様初めまして。4月より沖縄協同病院形成外科外来医長として赴任させていただくこととなりました多田惇と申します。出身は関西の滋賀県で、兵庫医科大学を卒業、神戸大学形成外科へ入局しました。学生時代より沖縄が大好きで休暇の度に訪れていましたが、4年前より念願叶って沖縄県へ移住、浦添総合病院に勤務しておりました。趣味はスキューバダイビングと音楽活動全般で、沖縄へ移住後は民謡教室で三線を習い始めました。きずあとのケア、熱傷、四肢・顔面外傷、褥瘡、皮膚・皮下腫瘍といった様々な範囲の疾患を診察の範疇としております。ひとりひとり患者様に寄り添った丁寧な診察を心がけ、患者様にとってより良い生活の質を維持できるよう努めていきます。今、新型コロナウイルスによる世界的危機の中、様々な不安が県内を駆け巡っていますが、その中で少しでも希望の光となれるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション科 仲舂 美希 (なかます みき)

はじめまして。リハビリテーション科の仲舂と申します。私は琉球大学医学部医学科出身、大浜第一病院で初期研修2年間、整形外科後期研修1年間勤務しました。その後リハビリテーション科専攻医として沖縄リハビリテーションセンター病院(回復期病院)で1年間、琉球大学病院で1年間研修しました。今回、市中の急性期病院でのリハビリテーション治療を学ぶため、1年間という短い期間ではありますが、リハ医として勤務させていただくことになりました。まだまだ勉強することが多くありますが、皆さんと一緒に患者様により良い生活を送っていただけるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



内科 永村 良二 (ながむら りょうじ)

“沖縄協同病院に消化器内科を立ち上げよう”と決意し2015年から2018年までの3年間、同じ民医連の長野中央病院で消化器研修を行いました。その後2年間は沖縄県立北部病院にて消化器内科として働き、5年ぶりに帰ってきました。この5年間で培った経験・知識を活かし、外科含め他科と協力しながら最善の消化器診療が提供できるよう努めてまいります。さて、沖縄は大腸癌患者が多く今後も増えていくことが予想されます。大腸癌死を防ぐためには便潜血検査が重要ですが大腸カメラに抵抗があり二次精査を躊躇している方々も多いと思います。なるべく痛くない優しい内視鏡を提供できるように頑張りますので安心して受診してください。また、膵癌も増加傾向にあります。早期発見が難しい疾患ですが、今年度より超音波内視鏡を導入しこれまで以上に胆膵領域に力を入れてまいります。消化器疾患でお困りの方は消化器内科にご相談ください。今後ともよろしくお願いいたします。



内科 長谷川 千穂 (はせがわ ちほ)

沖縄医療生協から3年間、「糖尿病・内分泌」の専門医研修で向出し、2020年4月に沖縄協同病院に帰任しました。2年間は北海道札幌市の勤医協中央病院で1年間は琉球大学病院の代謝内分泌・血液・膠原病内科で勉強しました。現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)で沖縄も感染者が増加し皆さん不安を抱え過ごされていると思います。世界的に感染が広まっているとはいえ、各国の対応で感染者数、死者数に違いがあり、近隣の韓国、台湾は早期から厳重な検査、一時は過剰と批判され、現在は評価されているハードルの低いPCR検査で軽症の段階で感染者を見つけ出し適切に隔離し感染拡大を押し止めています。しかし日本では「東京オリンピック延期」の決定まで、感染者数抑制を意図するかのようPCR検査数の抑制とそれに続く感染拡大、院内感染の多発が生じています。ウイルスの恐怖に怯えながらも民衆の一人として適切な検査実施、医療資源確保、生活保障要求等声を上げ続け、真の「民主主義」に近づく以外に生き延びる方法はないと感じています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

病院の活動状況 <2020年3月度>

- ・ 外来一日平均患者数：305人 (前年同月比 -61人)
- ・ 入院一日平均患者数：275人 (前年同月比 -29人)
- ・ 組合員利用分量(率)：60.4% (前年同月比 +1.3%)

新型コロナ

164 小児科より



新型コロナウイルスの流行に、四月十六日全国に緊急事態宣言が出され、県内でも外出自粛要請や特定施設の休業要請が発表されました。対策が功を奏すれば、この表記事が出る五月頃には、県内の一日に確認される感染者数は減ってきているかもしれません。しかし、そこで気を緩めず、波への警戒が必要とされています。新型コロナウイルス感染症が終息するのは、数か月以上、一年以上になることもいわれています。感染を予防する最も大事なことは、とにかく「こまめな手指衛生」と「やーぐまい(外出自粛)」です。三密(密閉、密集、密接)を避け、社会的距離を取る事で、感染の連鎖は抑えられます。冷房中の部屋や自動車内の「換気」も重要です。

市販されている界面活性剤入りの洗剤(手洗いソープ、ティンブルや床用ふき取り洗剤、洗濯洗剤等)について、新型コロナウイルスに対する不活化効果(平たく言うとウイルスを殺す効果)があることがわかってきましたので、アルコールがなくても家庭内の環境衛生を保つことは可能です。

発熱二日前から人に感染させる力があるため、発熱してから感染対策しても、手遅れの場合もあります。自分が「気付かない感染者」だと思つて、日頃から他人にうつさないような行動(マスクをする、距離を取る等)を行う事も重要です。一方で、感染者の八割が誰にもうつす策を取れば、人への二次感染は防げるのです。

パンデミック(大規模流行)が起きると、ウイルス以外に不安や差別も「感染」します。悪いのはウイルスであつて感染した患者さんには被害者です。また、医療従事者への差別も発生しています。不安や差別の感染を防ぐ一番の方法は、正しい知識と理解です。先の見えない不安も大きい事でしょう。わからない事を怖がるよりも、今それぞれの立場で自分たちが出来ることを「ゆいまーる精神」で、一つ一つやっていきましょう。

小児科 安藤 美恵 (厚生労働省クラスター対策班)

西洋人形

画・内科医 上原 和博



<ご意見・ご要望>

血圧計が共同使用であるので消毒もできない。

コロナが心配です。対処してほしい。
たとえば個別か自宅計測とか。

<ご意見・ご要望>

ご指摘ありがとうございます。

アームの部分は布製のため毎回のふき取りは困難と考えます。できれば肌が触れることのないよう上着(薄手)を着てから測定をお願いしたいと思います。

指がふれる部分、スタートボタンは頻繁に消毒を実施しておりますが、気になる方は測定後受付に於いてある消毒液をご使用下さい。

もしくはご意見にありますように自宅で測定したメモやノートを持参して頂ければ改めての計測は不要です。

皆さまが安心して受診して頂けるよう配慮していきますので今後ともご意見・ご協力をお願いします。

1階外来師長 長嶺さかえ
2階外来師長 新垣亜希

新入職員歓迎セレモニー

新入職員歓迎セレモニーが4月1日に開催されました。今年は、コロナウィルスの流行もあり、新入職員教育が通常の日程で行われず、辞令交付を代表者1名のみ行いました。

また、看護師の大城綾香さん、作業療法士の池原真澄さんの2名の先輩からあいさつがありました。応える形で、一般事務の高嶺圭さん、研修医の奥村ひかりさんの2名の新入職員のあいさつがありました。

最後に、歓迎の意味をこめて、「島人の宝」の替え歌の「協同病院の宝」を参加者で歌いました。

総務課 安仁屋 政芸



産婦人科科外来体制表

○2020年5月より土曜日が休診になります。

	月	火	水	木	金	土
午前 医師外来	仲里博恵	畑 春香	嘉陽真美	與那嶺尚絵	交代	
午後 医師外来	交代	交代	1ヶ月健診	交代		
午後 助産師外来	○	○		○	産婦健診	

《診療開始時間・受付終了時間》 午前：9:00～11:00 午後：2:00～4:00
(午後の医師外来受付は1:30～3:00です)

◆体制は急に変更になることもあります、事前にお問い合わせ下さい。

◆産婦健診は、産後の方を対象に健診及び母乳ケアを行います。

ハルサー だより ⑦

ヤグマイ時々ハルサー

この国の首相のように家で読書をしたり、コーヒーを飲んでくつろいでいる場合ではないので今月号は新型コロナウイルスについて思うことを書いてみたい。

先日、東京の妹一家に野菜を送るために郵便局に行ったら、そのまま小包を持ち帰ることになった。理由は送り先の郵便局でコロナ陽性の職員が出たので当分業務休止になっているとのこと。そのエリア内の集荷も止まるという。一人の発症が全国に影響する事態になっている。キャバクラやゴルフに行ったらわけではなく、ただ必要な仕事をしただけなのに。

ここ数カ月、家においてニュースにかじりついているが、政府の対応に毎日「大丈夫かー日本」と思う。対策が後手後手を通り越して、国民の命を守る気があるのかと疑う対応の連続だ。なぜ検査数、検査機関を増やさないのであるのか誰も説明しない。マスクは週一枚の医療機関も多く、大阪市では医療用ガウンの代用として雨ガッパの提供を市民に呼びかけている。二カ月前からモニタリングショーでは毎日、検査体制の充実、医療崩壊を防ぐための物資の提供、医療関係者の確保等を訴えているのに。そしてやっと行動するかと思ったら、政府推奨にもかかわらず政治家でさえも着用していないあのアベノマスクの配布だ。経費が四六八億円というのも絶句ものである。店頭からはゴム紐と白い糸が既に消えた。国民は自分の身は自分で守る準備に入ったのだ。

収入が〇／八割減になったため、金策に走り回り、失業で絶望している国民も多い中、衆議院議員は歳費を一年間二割減にするという。国の一大事にトップ以外の政治家の行動が見えないが、政党助成金等も含めて最低でも七割、できれば八割削減してほしいものである。

今、命がけで国民の命と生活を守ってくれている医療従事者やスパー関係者などには頭が下がる。それに報いるには、不要不急以外はみんな「ヤグマイ」するしかない。

ハルサー 金城 稲子